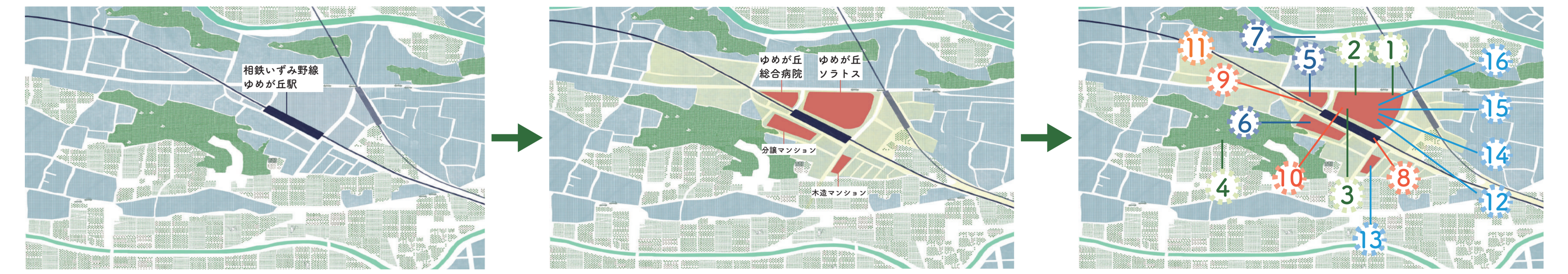


詳しくはこちらを
チェック!



地域資源を活かし循環型社会を啓発する開発

100年後もずっと元気なまちへ向けた16の取り組み



農地と住宅地が広がる自然豊かな土地

地域資源の循環を生み出すハブとなる施設を計画

ハブが多方面で地域の内外をつなげ
地域資源の循環が100年後も継続していくまちへ

ゆめが丘開発プロジェクトについて ● 泉ゆめが丘地区土地区画整理事業

泉ゆめが丘地区画整理事業における事業エリアは、横浜市泉区の南西部に位置しており、地区内には横浜市高速鉄道1号線（横浜市営地下鉄ブルーライン）「下飯田駅」、相鉄いずみ野線「ゆめが丘駅」の2駅と都市計画道路環状4号線を含む、東西に約550m、南北に約900m、施行地区画整理事業は、施行地区面積約23.9haの地区になります。泉ゆめが丘地区土地区画整理事業は、「横浜市都市計画マスタープラン・泉区プラン」において「新たなにぎわい・交流をはくむ市街地の形成に向けた取り組みを進める地区」として位置づけられており、「下飯田駅」及び「ゆめが丘駅」並びに環状4号線の交通ネットワークを活用し、土地区画整理事業手法により新たな駅前拠点市街地として計画的な街づくりを進めることを目的としています。

● 新整備施設概要

土地区画整理事業をもとに整備した4つの施設群およびその周辺開発地帯が核となり地域資源や人の行動の循環が発見され、100年後も元気なまちを生み出していきます。

駅

ゆめが丘駅

ゆめが丘総合病院

住宅

ゆめが丘住宅

ゆめが丘マンション



グリーンアウレリス横浜ゆめが丘

「ゆめが丘」駅

ゆめが丘ソラトス

食×農 「食」を中心としたサステナブルな社会を体験できるまち 自然・健康 「自然」「人」との交流で「健康」になれるまち エリアマネジメント 「地域活動」が活発で多様な主体が活躍するまち

1 ゆめが丘産農作物の循環

■原料の地産地消と再資源化
【グレーゆめが丘】
神奈川県産の小麦や地元産野菜を使用したパンを提供。「ばくらの小麦」は、近隣の社会福祉法人で栽培されており、今回の開発（ゆめが丘ソラトス）に際して出店事業者と地域事業者のコラボレーションが実現、地産地消の「新たな循環」を生み出しています。
【サンデーブルーイング】
ゆめが丘産のホップを徒歩5分以内の場所で栽培。また、グレーゆめが丘で出た廃棄用のパンを使用したビールも開発。ゆめが丘ソラトスの開発がきっかけで生まれた地産地消と地域の名物創出となりました。

2 農作物の循環

■生産者と地域住民をつなぐ【ライブキッチンソラトス】
食を通じて同じ考えを持った人々が集い、仲間との協業、情報交換、自然発生的コミュニティの形成が可能。生産者がレシピを紹介するイベントなども開催しています。ゆめが丘マルシェ【YYard等】神奈川県産の農産物や加工品を販売し、地域の食と農の拠点となっています。

3 酪農の循環

■資源を無駄にしない商品開発
相澤良牧場で搾乳された乳牛で新商品の洋菓子（バウムクーヘン）製造を開始。もともと出荷先が限られていた乳牛を破棄することなく、ゆめが丘ソラトスでの製造・販路をつくることにより地域に新たな循環を生み出しています。

4 農資源の循環

■農資源を楽しみながら体験できる施設が充実
里山・ホテル観葉会・田植え体験など古き良き日本の風習や文化を体験できる公園の他、いちご園や果樹園、野菜直売所も近隣に点在しており、農業体験や地元の取れたての野菜が手軽に楽しめます。

5 医療の循環

■ゆめが丘総合病院を誘致、地域「健康づくり」の取組
27の診療科目を提供する総合病院を誘致し駅前にて開業。併設の健康センターやエリマネ拠点でも健康推進イベントを実施し、地域全体での「健康づくり」に取り組みます。

6 自然意識の循環

■デザインコードの設定による環境意識の共有
スタジオオンクマガイが、新興住宅の外観・外構のデザインコードを監修。ゆめが丘ならではの豊かな自然からインスパイアされたコード設定で、周辺の自然環境を積極的に引き込み、暮らしの中に自然の気配が感じられる工夫を取り入れています。

7 運動の循環

■自然環境に恵まれた地域ならではの運動習慣を促進
天王森公園や泉川親水公園など、水と緑が身近に感じられる公園は、ウォーキングやジョギングなどの運動に最適です。ほたるに出会えるスポットでのイベントや、近隣のキャンプ場など、自然と触れ合える体験も充実しており、自然と近い環境で体を動かすことができます。

8 人の循環

■地域資源とつながる暮らしを育む
駅やゆめが丘ソラトスを地域のハブとして人の流れを生み出し、各拠点での体験を通じて住民の意識を啓発することで、行動の広がりが農地・自然への関心を高めます。農資源に近い暮らしを実現することで、環境への興味も深まり、日常の中で地域資源の循環を実感できるようになります。

9 コミュニティの循環

■地域住民の交流を促進
夏祭りや健康をテーマにしたイベント等による地域住民交流。エリマネ協議会が積極的に地域住民を巻き込んだイベントを開催。住民同士のコミュニティを広げ、深めていきます。

10 配送の循環

■自動配送ロボットを活用した物流効率化と利便性向上
自動配送ロボットとモバイルオーダーシステムを組み合わせ新たな商品配送サービスを開始。物流の人手不足や子育て世代の買い物の負担軽減を目指し、商業施設全館として取組を全国で初めて本格導入。今後は配送範囲の拡大を検討し、地域全体での利便性向上を図っていきます。

11 地域活動の循環

■活動場所（ハード）整備
活動内容により選択できる多様な場所を用意

■推進体制（ソフト）構築
開発事業者を中心にエリアマネジメント協議会を結成

12 衣服の循環

■衣類の再資源化
IoT機能を持つ衣類回収ボックスを設置し、通常は焼却処理される衣類を再資源化。回収によりゆめが丘ソラトスでの利用が可能なお買物券を発行し、エリア内の経済活性化にもつなげています。

13 住まいの循環

■大規模な木造マンションを駅前を実現
木造マンションを計画し、建築中に排出されるCO2削減および竣工後も木材へのCO2定着による持続的な環境への貢献を果たします。本開発のシンボリックな場所となる駅前に建設し、外装や内装も木調の素材を随所に取り入れ、環境負荷を抑えた開発を体現しています。

14 水の循環

■再生水をトイレや植木の水やりへ利用
排水を処理して再生水として循環利用を図るシステムを導入。ゆめが丘ソラトス内から排出された厨房排水や雑排水を中水水設備により利用可能な水質レベルまで浄化した水に再生します。この再生水を中水として同施設のトイレの洗浄水や植栽散水に再利用することで、施設の上水使用量の約30%の削減が見込めます。

15 太陽光の循環

■太陽光パネル設置によるCO2削減
ゆめが丘ソラトスでは、太陽光パネルを活用して太陽光を再生可能エネルギーへと変換し、施設内で消費しています。これにより、年間約780トンのCO2排出削減が見込まれており、地球環境に配慮した持続可能なエネルギー利用を推進しています。

16 廃食用油の循環

■大規模複合商業施設内飲食店の廃油をSAFへ
ゆめが丘ソラトスの飲食店などから排出される廃食用油を回収しSAF（Sustainable Aviation Fuel）製造に提供しCO2の大幅な削減に寄与します。

食×農 「食」を中心としたサステナブルな社会を体験できるまち

地域資源の農業を活かした豊かな食があることで地産地消を促進し、地元で経済を回す。地元の雇用を生み出す。

自然・健康 「自然」「人」との交流で「健康」になれるまち

身近な自然とともに多世代交流を育む。心身ともに健康でいられる。

エリアマネジメント 「地域活動」が活発で多様な主体が活躍するまち

誰もが地域のプレイヤーとして活躍し、新しい毎日を迎えられる。